

## 家庭教育支援チーム・リーダー養成講座① 実施レポート

日時：令和元年5月29日（水）10時～15時

会場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂

参加者：37名（うち市町村等から23名）

今回は「家庭教育支援の優れた活動事例を知ろう」というテーマで、8つの市町から集まった方々が、講義をもとに情報交換や協議に取り組みました。

### 【午前の部】

はじめに、愛知県で先進的な取組をされている「武豊町家庭教育支援チーム Smiley Dream」の**櫻井 雅美 理事長**を講師に迎え、「子育て中の方の社会参画を意識した家庭教育支援」という演題で講話をしていただきました。櫻井氏はまず、支援者は「家庭教育はこうだ」と難しく考えずに、バリアを外すことが大切であるとし、これにより関係者側の意識も変わっていくことを体験談を交えながら分かりやすく伝えてくださいました。

また、子育て支援と家庭教育支援の違いに触れ、家庭教育が安定していないとどうしても女性活躍が進んでいかないため、父親同士や母親同士を巻き込む仕組みづくりが重要であることを教えてくれました。例えば、母親を対象にしたアンケート調査やファミリーターの依頼、父親がリフレッシュしながら情報交換できる機会の保障等、実際に地域で取り組むことができそうなヒントを紹介していただきました。ほかにも、「今していることが家庭教育であると認めることが親の成長を促す一歩」「保護者のどんな意見も、課題もまちがいではない」「活動に80%、人材育成に20%」など、地域のリーダーとなる参加者に対し、心構えとなる示唆を与えていただきました。



<櫻井氏の素晴らしい話術にも感動！>

### 【午後の部】



<佐々木氏のデータと体験に基づく講話>

午後の部では、県教育庁生涯学習課の**佐々木達也社会教育主事**が「秋田県の家庭教育支援の現状と課題」について講義を行いました。佐々木氏は平成28年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究」に基づきながら、家庭教育に困難を抱える傾向のある家庭の支援、これからの家庭教育支援の課題、支援者を増やす留意点に触れ、家庭教育支援の基本的な方向性や家庭教育支援チームの基礎と秋田県の家庭教育支援施策について話しました。結びには、「チームが持続的に活動をしていく上でも、各チーム員

が無理をせず、できる時間・できる範囲で活動に取り組むことが大切である」と強調され、参加者は午前の部の講話内容との重なりに頷いていました。

情報交換や協議では、市町村が異なる参加者同士でグループになり、各市町村で今後取り組んでいけそうな活動について話し合いました。地域は違えど支援にまつわる課題や要望は共感する部分が多く、参加者はヒントや励ましをもらいながら地域でチャレンジしたいことを見出していました。



<今できていることを情報交換>

### 【参加者の声】（抜粋）

- ・家庭教育を前面に出すのではなく、まず集ってもらえるような企画を考えるアプローチの仕方がとても参考になった。また、受講した人に発信者になってもらうことも学ぶことができた。
- ・家庭教育支援は、社会参画や他者貢献ができる場になるということに気付かされた。
- ・立ち上げの方法、PRの仕方等を知ることができた。人を知ること、地域を知ることの大切さを感じた。
- ・担当になったばかりなので、現状と課題を聞くことができてためになった。